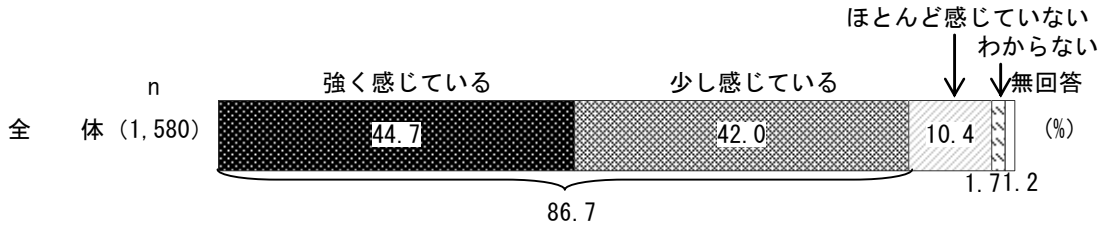
６　防災に関する取り組みについて

（１）大地震や風水害への不安

◇『感じている』が８割台半ば

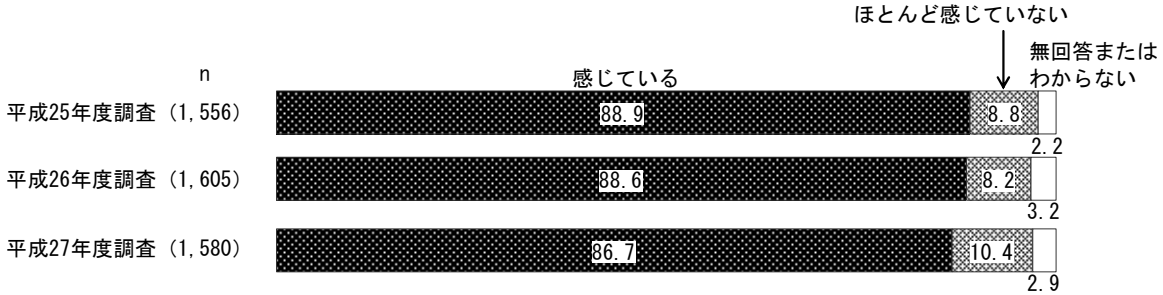
問28　平成23年３月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度６弱を記録し、大きな被害が出ました。また、近年、記録的な大雨や台風などにより国内では浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかという不安を感じていますか。（○は１つ）

＜図表６－１＞大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(44.7%) と「少し感じている」(42.0%) を合わせた『感じている』（86.7%）は８割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じていない」（10.4%）は１割である。（図表６－１）

〔参考〕平成 25 年度・平成 26 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

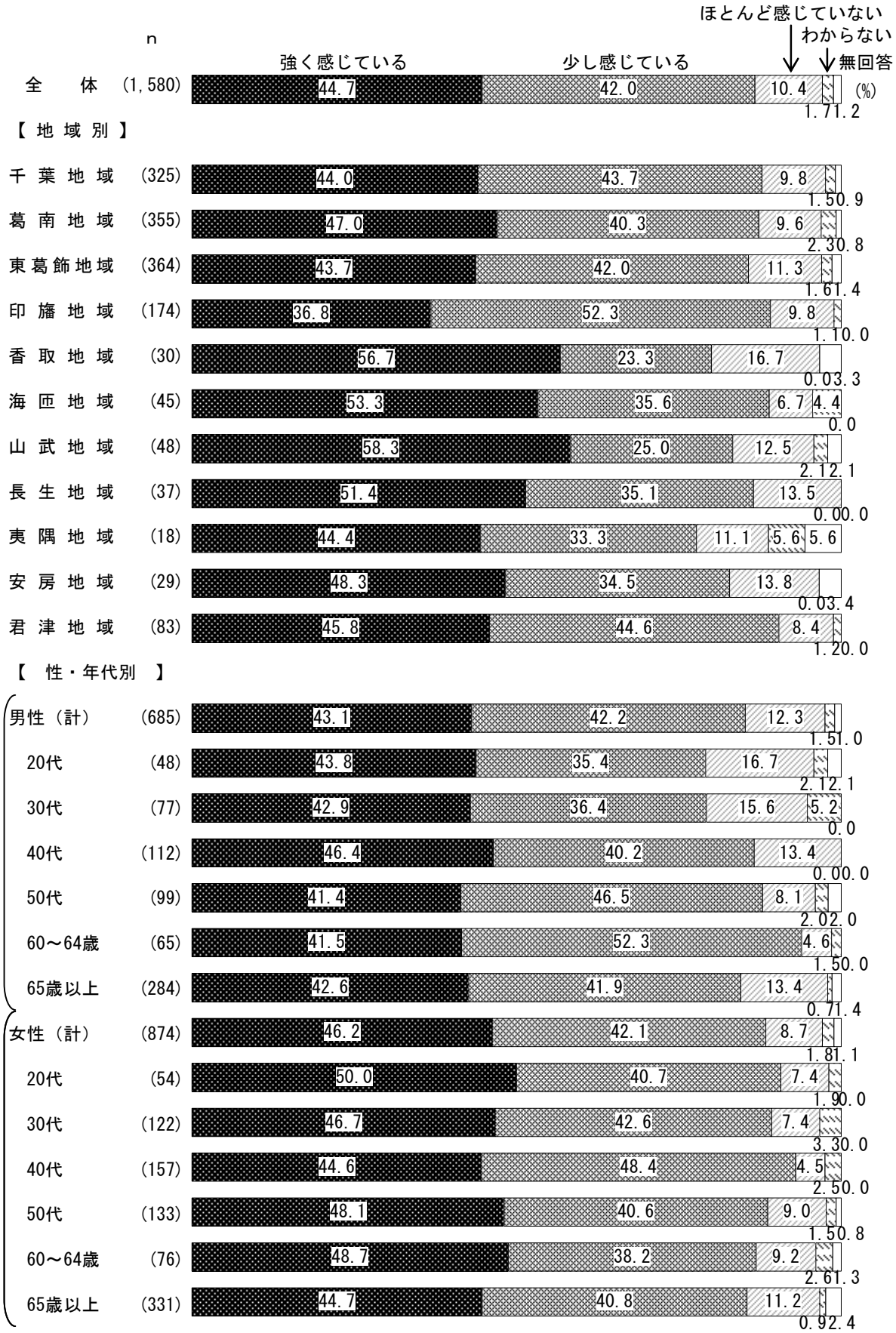
地域別にみると、“印旛地域”（36.8%）で「強く感じている」割合が全体に比べて低い。

（図表６－２）

【性・年代別】

性別でみると、『感じている』は女性（88.3%）が約９割、男性（85.3%）が８割台半ばと、女性の方が高い。性・年代別でみると男性の 60～64 歳（93.8%）、女性の 40 代（93.0%）で９割台半ばと特に高くなっている。（図表６－２）

＜図表６－２＞大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別

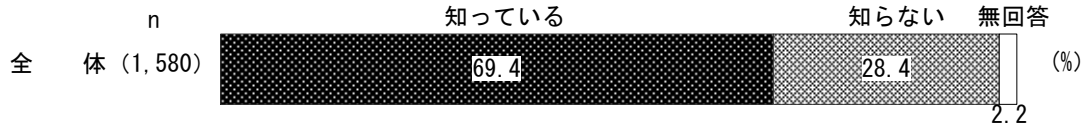


（２）「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

◇「知っている」が約７割

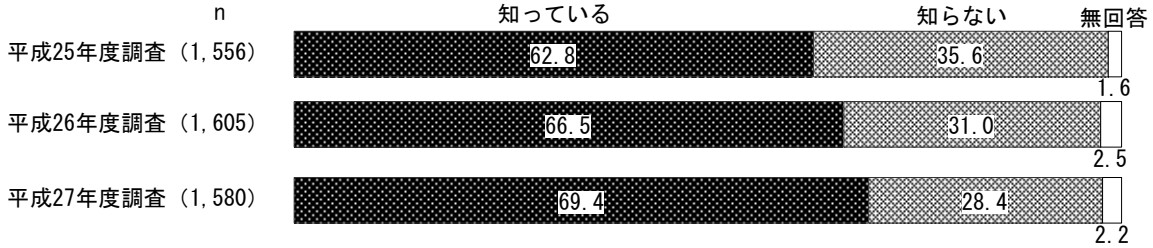
問29　市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。（○は１つ）

＜図表６－３＞「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」（69.4%）が約７割となっている。一方、「知らない」（28.4%）は約３割となっている。（図表６－３）

〔参考〕平成 25 年度・平成 26 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



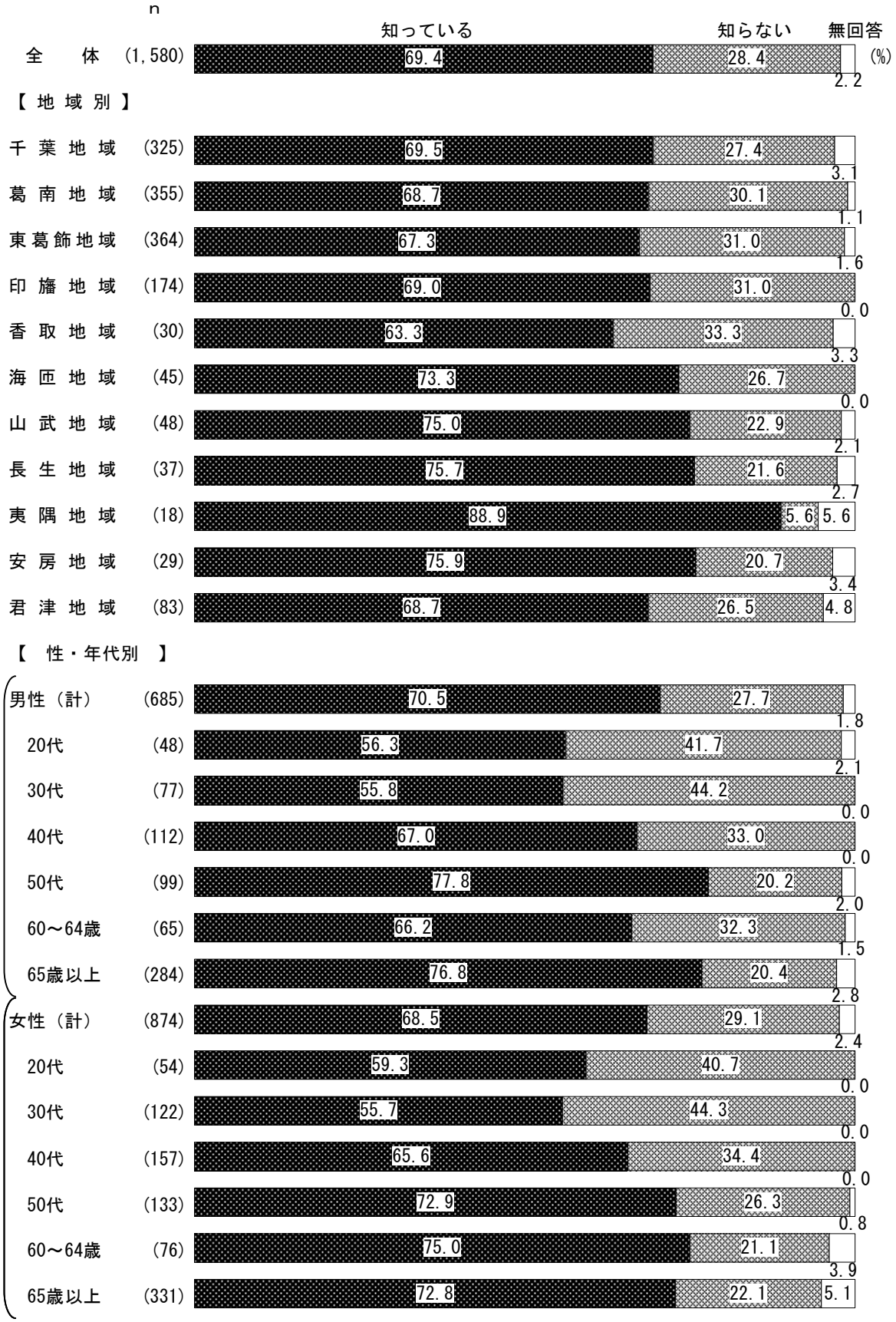
【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“夷隅地域”（88.9%）で約９割と他の地域に比べて高くなっている。（図表６－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性の50代（77.8%）で約８割、男性の65歳以上（76.8%）で７割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。一方、「知らない」は女性の30代（44.3%）、男性の30代（44.2%）で４割台半ば、男性の20代（41.7%）、女性の20代（40.7%）で４割を超えて高くなっている。（図表６－４）

＜図表６－４＞「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度／地域別、性・年代別

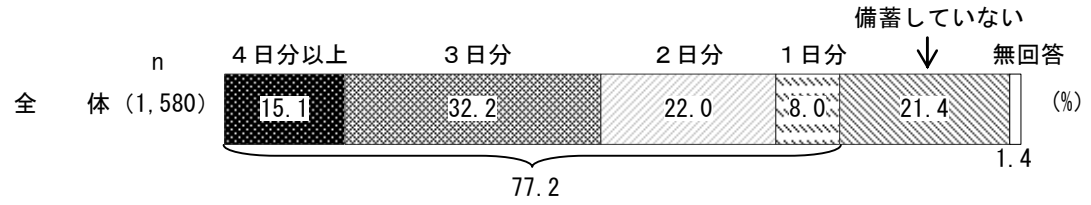


（３）飲料水や食料の備蓄状況

◇『備蓄している』は約８割

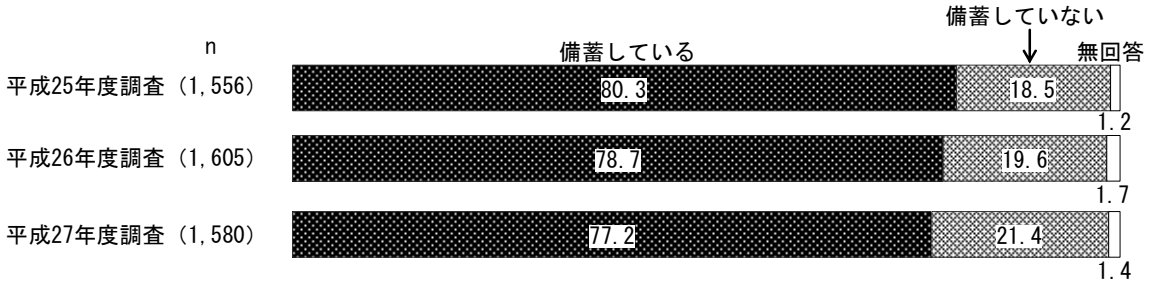
問30　大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫等にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は１つ）

＜図表６－５＞飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「３日分」（32.2%）が３割を超え、「２日分」（22.0%）が２割を超え、「４日分以上」（15.1%）が１割台半ば、「１日分」（8.0%）が約１割となっており、この４つを合わせた『備蓄している』（77.2%）は約８割となっている。「備蓄していない」（21.4%）は２割を超えている。（図表６－５）

〔参考〕平成 25 年度・平成 26 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



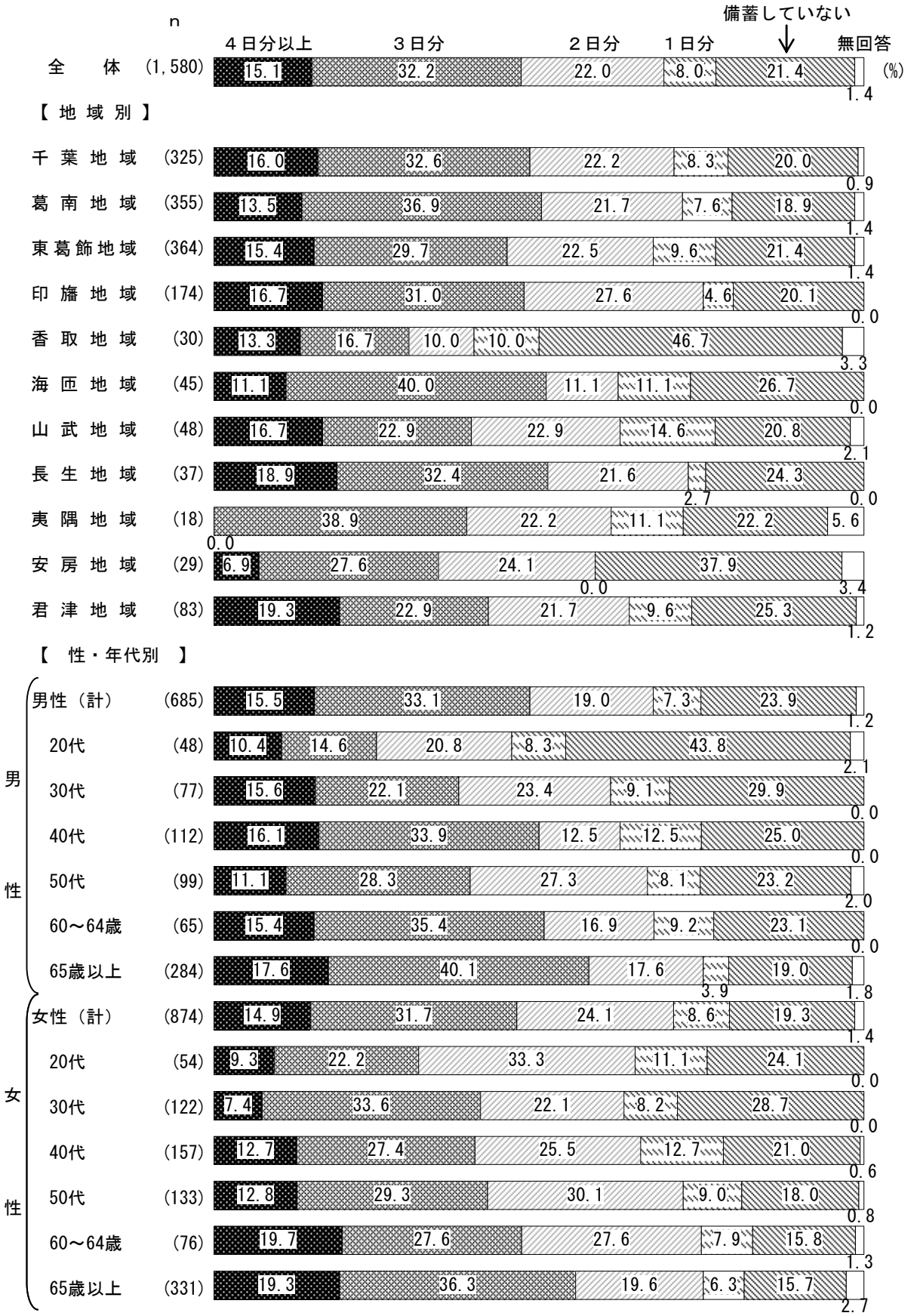
【地域別】

地域別にみると、『備蓄している』は“香取地域”（50.0%）、“安房地域”（58.6%）を除く全ての地域で７割以上と高くなっている。（図表６－６）

【性・年代別】

年齢層の高い方が『備蓄している』割合が高い傾向が見られる。一方、「備蓄していない」は男性の20代（43.8%）で４割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。（図表６－６）

＜図表６－６＞飲料水や食料の備蓄状況／地域別、性・年代別

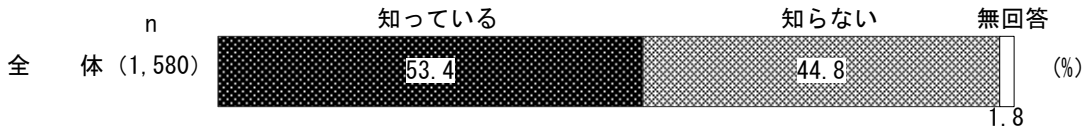


（４）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

◇「知っている」は５割台半ば

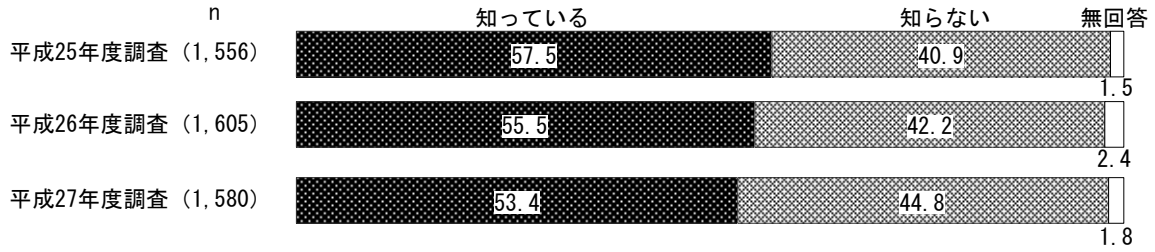
問31　固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。東日本大震災でも、使用できなくなりました。
あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。
（○は１つ）

＜図表６－７＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」（53.4%）は５割台半ばとなっている。一方、「知らない」（44.8%）は４割台半ばとなっている。（図表６－７）

〔参考〕平成 25 年度・平成 26 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



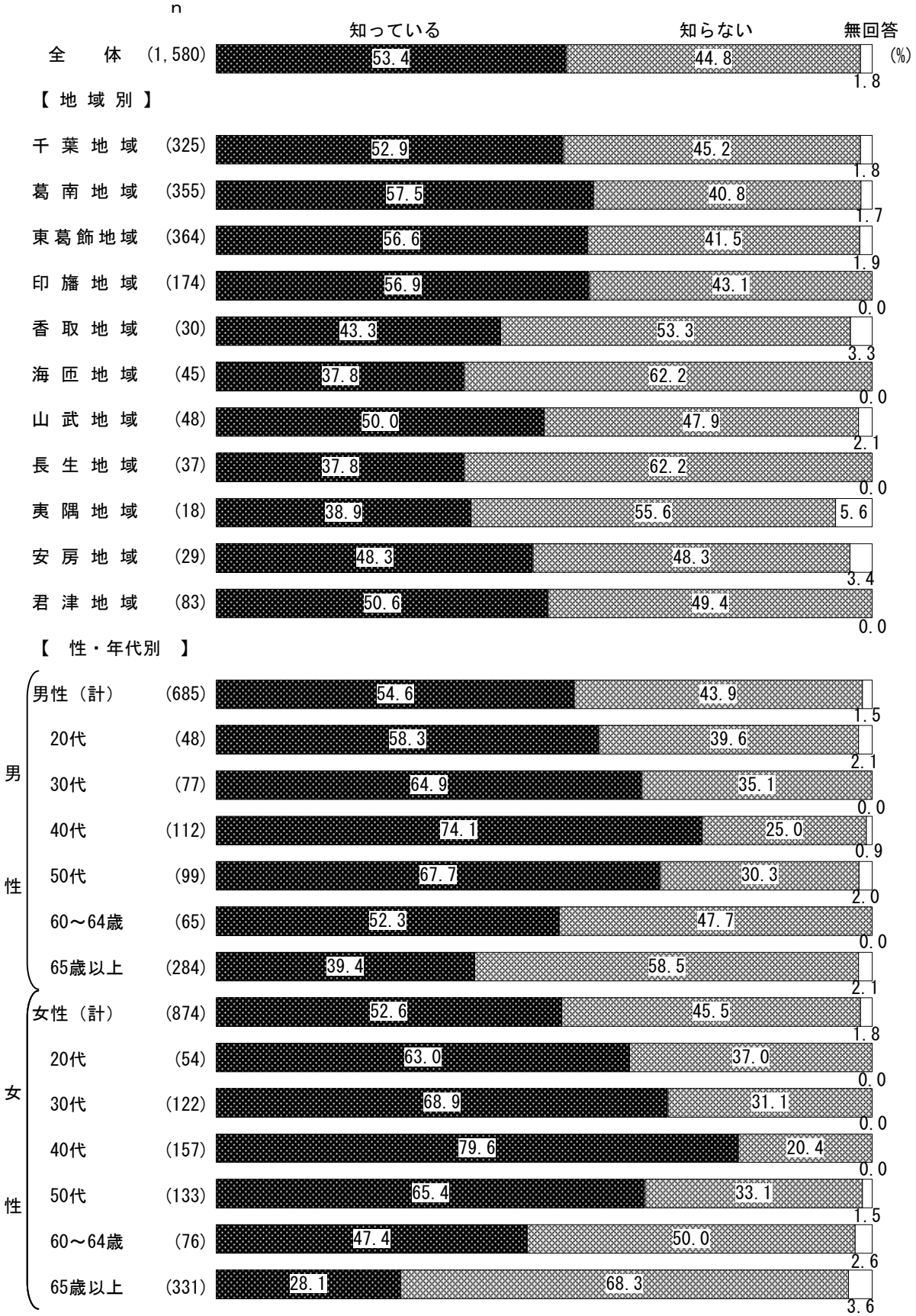
【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“海匝地域”、“長生地域”（同率 62.2%）で６割を超えて他の地域に比べて高くなっている。（図表６－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の 40 代（79.6%）で約８割、男性の 40 代（74.1%）で７割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。（図表６－８）

＜図表６－８＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別

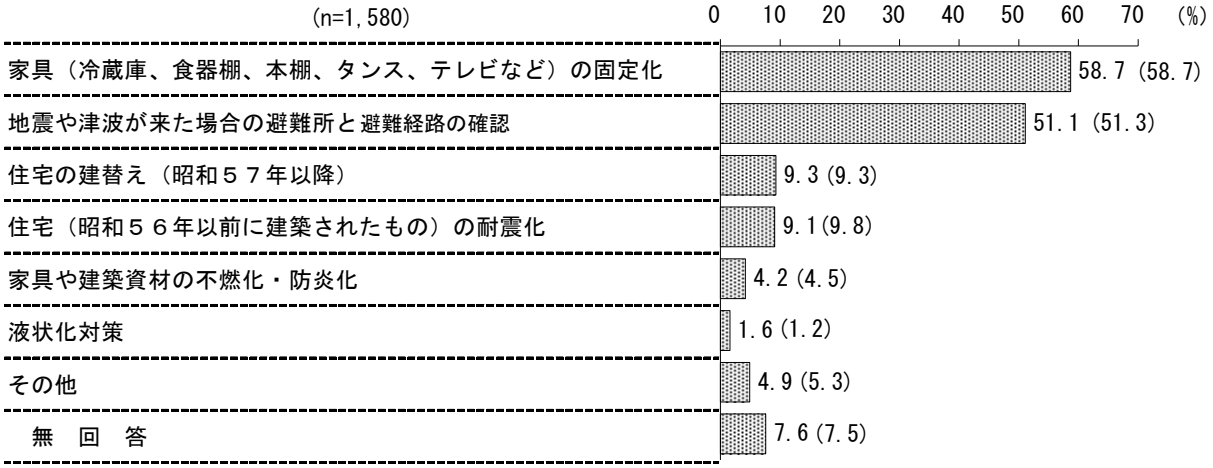


（５）地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約６割

問32　あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか。（行う予定ですか）。（○はいくつでも）

＜図表６－９＞地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注）（　）の数字は平成 26 年度の同様の項目による調査結果　ｎ＝1,605

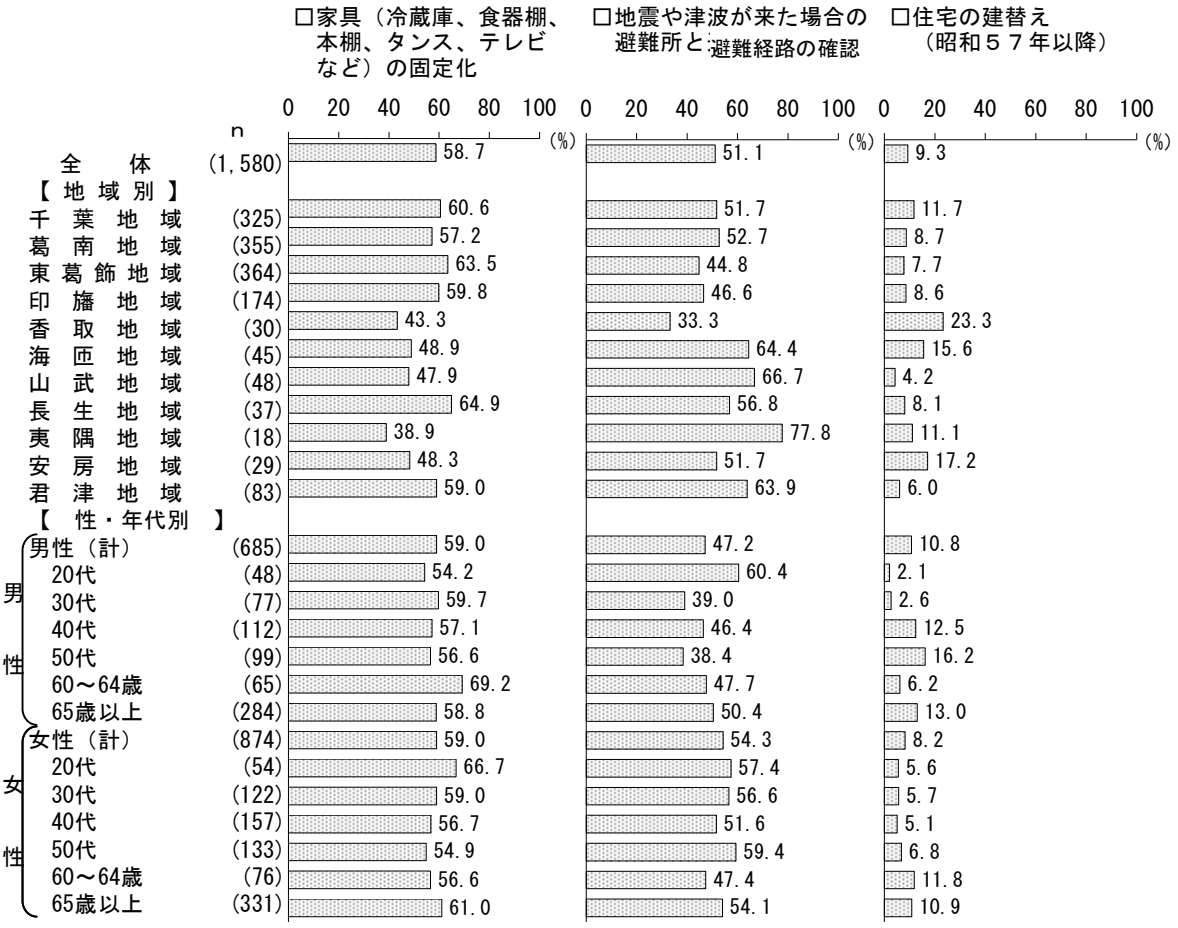
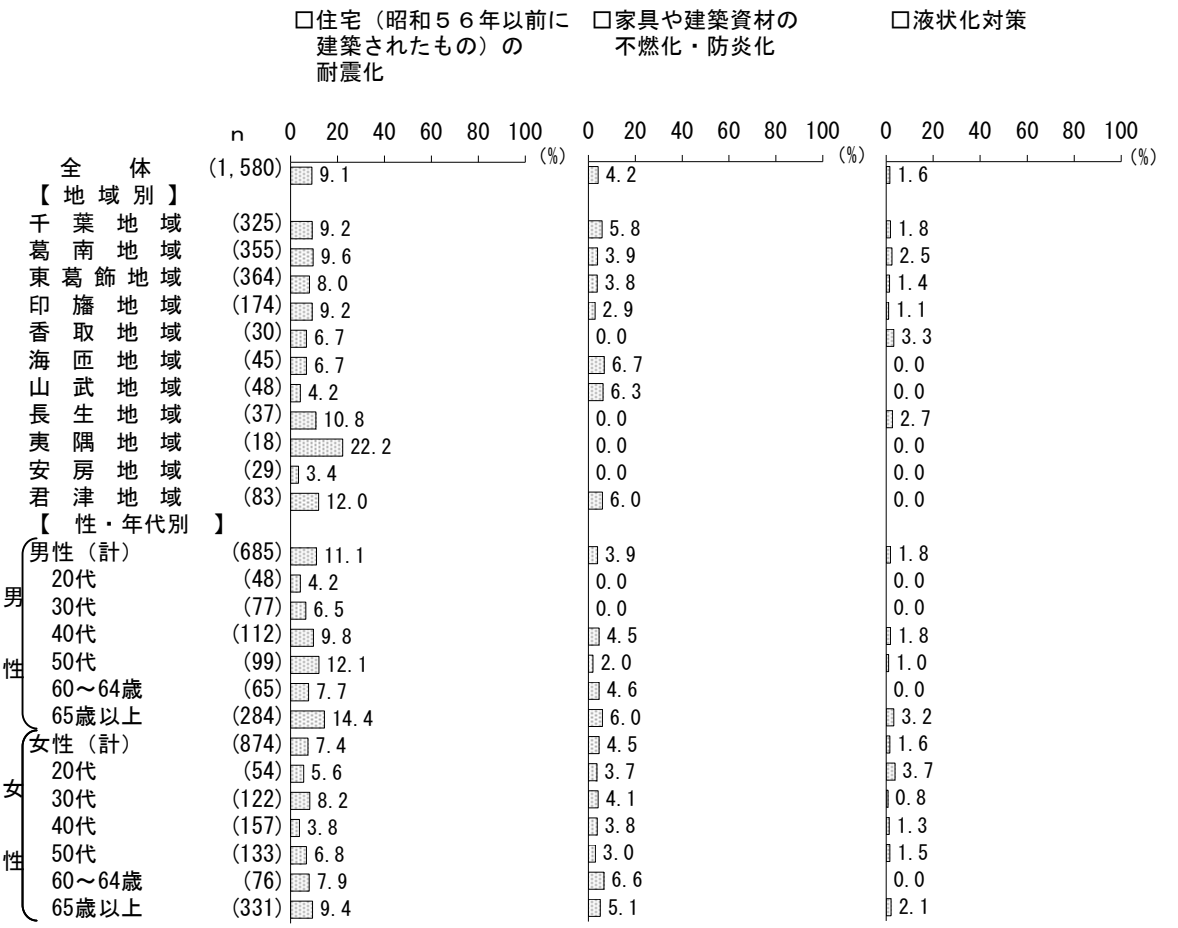
地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（58.7%）が約６割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」（51.1%）が５割を超え、「住宅の建替え（昭和５７年以降）」（9.3%）、「住宅（昭和５６年以前に建築されたもの）の耐震化」（9.1%）が約１割となっている。（図表６－９）

【地域別】

地域別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は“長生地域”（64.9%）、“東葛飾地域”（63.5%）で６割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難径路の確認」は“夷隅地域”（77.8%）が約８割と高くなっている。

（図表６－10）

【性・年代別】

性別で見ると、「地震や津波が来た場合の避難所と避難径路の確認」は女性の方が高い。性・年代別では、女性は60～64歳（47.4%）を除いて全ての年代で５割以上となっており、特に、女性の50代（59.4%）で約６割と特に高くなっている。（図表６－10）

＜図表６－10＞地震の被害を防ぐための対策／地域別、性・年代別